

『自分にも居場所がある』

小城市立岩松小学校 6年 佐伯 結愛

私は最近夏休み明けに自殺する子どもが多いというニュースを見ました。長い夏休みが終わって、学校に行くのにプレッシャーを感じてしまうようでした。私と同じ年代の子も自殺していることを知り、悲しくなりました。私も学校に行きたくないなと思うことはあるけど、そこまでおいつめられるかというのは個人差があるんだろうなと思います。だからこそ、家族や周りの友達がなやんでいる人の変化に早く気づくことが大切だと思いました。自殺をしてしまう人の原因は、学校内・SNSでのいじめや、進路についてのなやみが多いそうです。人にはそれぞれ自分だけのなやみがあります。しかし、なやみを打ち明けることができる環境や場所があれば、自分だけでかかえこむ必要がなくなると思います。今は学校から帰ってきても一人だったり話せる相手がいなく、SNSにたよってしまいがちです。人同士が直接交流できる場所があれば、その人の変化にも気づくことができると思います。

私の周りにも自分のことを傷つけたり、死にたいと言っている人がいました。その人は元気なときがあったり、暗いときがあったりと、心が不安定でした。元気な時もあるので知らない人から見ると、平気そうにみ見えてしまいます。そうならないためにも、ふだんからその人に寄りそって気持ちを聞いたりすることが大切だと思いました。

私は今回この作文を書くにあたって、どうすれば自殺をしてしまう人を

減らすことができるのかを考えました。そこで考えたのが、一人一人が自分の居場所を見つけるために、家族や学校をこえて地域での活動などに参加してみることです。そのような活動をしてみることで、自分はここにいていいんだと思えるようになっていたり、周りの大人も変化に気づきやすくなると思います。なやみを抱えている人は、自分だけでなやまずに自分にも居場所があることを知ってほしいです。私は今まで何度か転校をする中でいろいろな地域の活動に参加してきました。いつも引っ越し先では友達や知り合いがいなくてこどくでしたが、活動に参加することにより世界が広がり、みんなに支えられながら新たな生活をおくることができました。今は、家族だけでなく地域との関わりの必要性を実感しています。自殺を考える人は未来に希望をもてないために、そのような考えになってしまうのだと思います。学校に絶対に行かないといけなとか、今の友達との生活がすべてなどと考えるのではなく、せんとくしは一つではないことに気づいてほしいです。せまい社会にとらわれず、多用な考えで生きていくことが明るい世界につながると考えています。

この作文を書いているときに、親せきの赤ちゃんが生まれたという電話があり、家族で大喜びしました。この世界に生まれてくるほとんどの赤ちゃんは、みんなにしゅくふくされて生まれてきます。大切な命だからこそ、一人一人みんなが自分の命を大切にできる社会づくりが必要です。今この時代を生きる私たちはもちろん、今日生まれた赤ちゃんのようにこれから生まれてくる赤ちゃんたちも元気に成長できる明るい社会にしていきたいです。